

(1) 教育研究上の目的

項目	人材の養成に関する目的その他の研究教育上の目的
教育研究上の目的	人間・社会システム情報科学専攻では、各自が有する学術分野における基礎学力を基盤として、他分野と交わりながら周辺領域に及ぶ学識と広い視野を体系的に身につけ、国際人としての素養を有し、高い倫理観と責任感をもって、未踏の課題を論理的判断に基づき解決する能力を習得させることを教育研究上の目的とする。また、工学においては「ものづくり」「コトづくり」を意識しつつ、創造的・新規的な研究開発を自立的に推進できる能力を習得させることを目的とする。

（２）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

項目	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
教育目標	慶應義塾大学の修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、多様性を重視しつつ、科学技術の専門性を活かして未知の領域に果敢に挑戦し、社会を先導できる人材を養成することを目的とする。さらに、人間や社会を取り巻く広範な科学技術について、自然・人間・文化・社会に関する諸活動と有機的に結び付け本質的理解を究め、未踏の自然理解や人間理解、文化理解、社会理解、技術理解に果敢に挑戦し、人間社会の未来を創造し発展させる能力を有した真の国際人の養成を目標とする。加えて、工学においては「ものづくり」「コトづくり」の理解を意識しつつ、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士(工学)の学位を授与する。
資質・能力目標	（１）：学生一人ひとりの固有の才能に基づき、人間社会へ貢献する強い意志を持って主体的に問題を見出すことができること。 （２）：課題を要素化して、学術と先端技術を駆使して取り組むことができること。 （３）：基礎から応用までのあらゆる科学技術分野において、世界最先端で独創的な研究成果を生み出すことができること。 上記３項目は、専攻で共通である。 （４）：各自が有する学術分野における基礎学力を基盤として、他分野と交わりながら周辺領域に及ぶ学識と広い視野を体系的に身につけていること。 （５）：国際人としての素養を有し、高い倫理観と責任感をもって、未踏の課題を論理的判断に基づき解決することができること。 （６）：「ものづくり」「コトづくり」を意識しつつ、創造的・新規的な研究開発を自立的に推進できること。
評価内容	理工学研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に則り、各専攻において所定の単位を修得し、かつ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果について以下の項目について審査を行い、総合的に評価する。 1. 主体的に取り組んだ研究に基づくものであること。 2. 研究内容が具体的、客観的かつ論理的に説明されており、新規性を有する成果、あるいは新たな観点・知見・解釈が含まれていること。 3. 従来の研究を適切に引用していること。

（３）教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

項目	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
教育課程の編成	授業科目は、総合科目、専門科目、研究科目で構成する。人間・社会システム情報科学専攻の学位授与方針で示した修了要件を達成するため、専攻それぞれの特色を活かして学修者本位の学びを進めることができるカリキュラムを設定する。研究能力の育成のため、研究課題の設定および解決に至る方法論と研究の実施、収束、論文作成等について教授する。学生は指導教員に指導を受けながら研究に従事し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果をまとめる。この過程においては多くの教員から段階的に指導を受ける仕組みを設ける。さらに、専攻ごとの特色や研究主題の展望を掌握し、専門分野での確かな知識や方法論を習得できるカリキュラムとして、座学中心の科目にとどまらず、専門人材育成、国際人材育成、多様体験重視など、学修者自身が何をどのように学びたいか、ということを考えて選択できる科目群の設定を一つの重要な方針とする。これに加えて、専門科目とは別に、最先端の科学技術と人間社会のより良い相互関係を提案し実現できるようになるための社会のリーダーを養成することを目的とした科目や、国際・学際的な知見の範囲を広げるための科目を指定単位数以上取得することを求める。
教育課程の実施	人間や社会を取り巻く広範な科学技術について、自然・人間・文化・社会に関する諸活動と有機的に結び付け本質的理解を究め、未踏の自然理解や人間理解、文化理解、社会理解、技術理解に果敢に挑戦し、人間社会の未来を創造し発展させる能力を有した真の国際人の育成を目指す。修士課程においては、各自が有する学術分野における基礎学力を基盤として、他分野と交わりながら周辺領域に及ぶ学識と広い視野を体系的に身につけ、国際人としての素養を有し、高い倫理観と責任感をもって、未踏の課題を論理的判断に基づき解決する能力を養成する。上述の能力の養成のため、オープンサイエンスカリキュラムと管理工学カリキュラムの教育課程を編成・実施する。 オープンサイエンスカリキュラムでは、各自の基盤とする学術分野の専門性を更に発展させるとともに、それらを自然・人間・文化・社会に関する諸活動と有機的に結び付けて捉えるための学識を身につけるための専門学識科目、産業界との連携を含む様々な活動を通して実際の課題意識の萌芽を促す高度経験科目、国外の大学や研究機関との連携協力等を通して国際人としての素養を養う高度国際科目、研究、開発、及びそれに基づく諸活動を円滑に進めるための実践的技能を養う高度スキル科目を提供し、高い学識の獲得と広い視点に基づく思考能力の自律的な開発を支援する。各学生が挑戦する研究テーマに関連した専門分野から複数教員が参画して研究グループを構成し指導を行うことで、広い視野の獲得と深い専門性の追究を実現する議論の場を提供する。また、そのようにして生み出された研究の成果は、研究テーマに近接した専門分野の教員にその周辺領域の学識を有する教員を加えた複数教員により審査する。 管理工学カリキュラムでは、社会活動における資源である「人間」「もの」「情報」「かね」の４つをキーワードとして、多様な視点や発想から科学技術とマネジメントを考える。管理工学カリキュラムでは、基礎研究で積み上げられ体系化されてきた「システムと人間」「応用統計と最適化」「情報科学と人工知能」「経営と経済」の４つの基幹学術分野を柱とする最先端の理論と技術を学ぶ。この教育と研究活動を通じて、現実の問題解決のための新たな方法論の創造と応用技術の開発を推進できる人材の育成を目指す。 基本的に、研究能力育成、専門性育成、国際、専門、実体験、スキル・リテラシー系、分野交流科目群の設定が行われ、カリキュラムに適した研究教育指導が行われる。

学修成果の評価 方法	本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、各科目において定める成績評価基準に基づいて行う。具体的には、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など、シラバスに定める方法によって行う。また、アセスメントプランを念頭に置きつつ、学生による授業評価アンケート等を組織的に実施することで、学生の主体的かつ自律的な学修を促しつつ、授業改善に向けた取り組みを推進する。
資質・能力目標と 教育内容との関 係	各種授業科目や研究科目の指導を通じて次の資質・能力を養成する。 （１）：学生一人ひとりの固有の才能に基づき、人間社会へ貢献する強い意志を持って主体的に問題を見出すことができること（総合科目、専門科目）。 （２）：課題を要素化して、学術と先端技術を駆使して取り組むことができること（総合科目、研究科目）。 （３）：基礎から応用までのあらゆる科学技術分野において、世界最先端で独創的な研究成果を生み出すことができること（専門科目、研究科目）。 （４）：各自が有する学術分野における基礎学力を基盤として、他分野と交わりながら周辺領域に及ぶ学識と広い視野を体系的に身につけていること（総合科目、専門科目）。 （５）：国際人としての素養を有し、高い倫理観と責任感をもって、未踏の課題を論理的判断に基づき解決することができること（総合科目、専門科目）。 （６）：「ものづくり」「コトづくり」を意識しつつ、創造的・新規的な研究開発を自立的に推進できること（専門科目、研究科目）。 以上の資質・能力目標を達成するため、総合科目、専門科目、研究科目を系統的に編成する。

(4) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

項目	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
求める学生像	本専攻では、以下の資質や意欲・興味を持つ学生を受け入れる。 (1) 理工学研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に強く共感し、科学技術の素養を高め、多様性を重視したコミュニケーション力を身に着け、自らの考えと行動により科学技術に立脚した未踏領域に挑戦できる能力を習得したい人材。 (2) 人間や社会を取り巻く広範な科学技術について、自然・人間・文化・社会に関する諸活動と有機的に結び付け本質的理解を究める上で基盤となる学術分野で高い基礎学力を有し、多様な価値観を受容しつつ、科学技術の更なる深化と社会への浸透を強く希求し、科学、技術もしくは広く学術の発展に強い意欲を持つ者。
選抜の基本方針	このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 6 月入試、(2) 8 月入試、により選抜を実施する。また、海外大学の出身者に対しては、上記の入試とは別に(3) 国際入試を実施する。これらの選抜により、様々な能力やバックグラウンドをもつ学生が互いに切磋琢磨し、創発効果を生み出せる教育研究環境を目指す。 (1) 6 月入試：書類審査と口述試問で選考する。 (2) 8 月入試：基礎・専門分野の学力を確認する記述試問ならびに口述試問を行い、総合的に審査する。 (3) 国際入試：年に複数回実施し、主として書類審査と口述試問で選考する。